

次年度会長決定

山口尚文 次年度会長プロフィール

【所属企業・役職】山進運輸(株) 代表取締役社長

【入会年度】平成23年度(第37期・平成24年2月入会)

【中央会経歴】平成26年度委員長/平成27年度副会長/
平成28年度県出向監事/平成29年度副会長



この度、鳥取県西部中小企業青年中央会 第45期会長のご承認をいただきました山口尚文です。どうぞ宜しくお願い致します。

秋里会長より会長のお話を頂戴した時に即答できず、『逃げたらダメだ!』という気持ちと『自分に会長が務まるのか?』という不安とが交錯し、悩みに悩みましたが最後は、『中央会に入会してからの7年間でなければ、自分はどれくらい出来たのだろう』と考えた時に『自分に出来る精一杯の恩返しをしよう』と決意し、お返事をさせていただきました。そして、2月15日の臨時総会にて会員の皆様より『異議なし!』と大きな声をいただき、不安を勇気に変えることが出来ました。

今後は、当会が設立されてから現在に至るまで、皆様が『走り続けた時間』『込めた思い』『流した汗』を振り返らせていただきながら、『責任を持った一歩』を踏み出す準備を進めさせていただく所存であります。至らぬ点など有るかと思いますが、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、今期も残り4か月となりましたが、45周年事業やお地蔵さまフェスティバル等の大きな事業が控えております。現在、秋里会長を先頭に全会員で各事業の成功に向けて精一杯活動しております。OB会員の皆様、関係各位の皆様におかれましては、引き続きのご理解ご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

山口尚文次年度会長お祝いについて

第37期会長 森脇哲雄OB(大幸(株) 代表取締役)

山口君、次年度会長就任おめでとう。

あなたとは入会前からの付き合いという事もあり、報告を聞いた時は嬉しいと同時に誇らしくも思えました。

七月、懇親会の壇上に立つあなたの晴れ姿を今から楽しみにしています。(笑)

まずは諸々の準備に追われ忙しい日々が続くと思いますが、始まってしまうとあっという間の一年間です。

中央会での活動はもとより、これまでの様々な経験を信じて、あなたらしく実直に大役と向き合ってください。

この経験がこれからも続くあなたの経営者人生にとって実り多い一年になる事を心から祈っています。

第40期会長 後藤太良OB(ティーエーアイ(株) 代表取締役)

尚! おめでとう!

尚と接するようになったのは40周年の制作部の時でした。

そもそも制作部の部長は違う方がするはずでした。当時の松田総統の強引なやり方で部長に任命させられました。そんな流れの中、尚には40周年記念誌作成の隊長を任命。委員会活動と同時に作成に尽力いただき、私の思いも最高の形で表現してもらえる記念誌を作成して頂きました。今も大事にベッドの横に・・・

不器用だけどとにかく前に前にという姿勢を見て40期の総務委員長をお願いしました。入会2年半ぐらいでしょうか?本当に苦勞されたと思います。当時の竹ノ内副会長、岩田剛先輩、素晴らしいメンバーに支えられ最高の40期総務委員会の運営をしていただきました。

その後の活躍は皆様ご存知の通りです。

最後に尚よ!

会員ひとつになって前に。

「やったれ!」

2月例会開催 ～事業を進化させるマトリクス～

「的確なアドバイス」

2月15日(金)真冬とは思えない暖かい夜空の下、中村委員長率いるビジネス経営委員会が担当する2月例会がANAクラウンプラザホテル米子にて開催された。



冒頭、秋里会長が自ら指導員を務めるスキーインストラクター検定会での体験を例に「教科書通りに行ってもうまくいかない事でも指導者の経験を活かしたアドバイスをする事で、うまく出来るようになる」と会長挨拶で述べられ、日頃、経営者・幹部として社員の上に立つ立場である我々にとって考え深い言葉となった。

「二重のお祝い！お子さん誕生・第45期会長決定！」

結婚当初3人の子宝に恵まれる事を奥さんと誓い合った安藤会員に、第三子となる「お父さんに似て(!?)小顔の元気な男の子」が誕生し秋里会長よりお祝いが手渡された。

続いて臨時総会が行われた。秋里会長より「当会会歴、そして山進運輸株式会社代表取締役社長としての経験を活かしその手腕を発揮してくれると確信する。45周年を迎えるにあたり、ふさわしい人材」と山口尚文監事を第45期会長として指名推薦。会員一同「異議無し！」の声と共に

満場一致で第45期山口尚文会長が承認された。

「委員長の一人舞台」

今月の委員長タイムは、地域ビジョン委員会山内委員長。所属企業を委員会に例えた会社紹介が行われた後、担当する第4回お地蔵さまフェスティバルを、にこっとさまのお面をつけて踊りてPRし、笑いが起こる山内委員長らしいユーモアのある発表となった。



「人口減少にどう対応するか！」

本例会は、今後の人口減少が企業に及ぼす影響にどのように対応して経営を革新していくべきか、その解決の一助となることを目的に開催された。第1部では「あなたの企業は20年後も大丈夫？～人口減少世界の未来～」と題し、社会全般やビジネスに関するクイズを織り交ぜ、人口推移などの推計値、データを基に進行役の田中会員が解説していき問題提起へと繋げた。

続いて第2部では、「事業を進化させるマトリクス～人口減少世界を勝ち抜く戦略～」と題し、人口減少の環境下でどうやって事業を伸ばし生き残り対応していくかを題材としたグループディスカッションが行われた。身近に迫っている

問題なだけに各会員とも真剣に考え意見を出し合い発表が行われた。そして富士フィルム株式会社を例に事業を進化させるマトリクスについて住会員より説明があった。



最後に橋本副会長より「会社事業を進化させるマトリクスは4つの方向に向かって行く。事業を理解し方向を見定める事が大切であり、逆に何もしない事が一番のリスク。本例会で感じ、学んだ事を所属企業に持ち帰り、役立てて欲しい。」と例会を締めくくった。

所属企業の経営者・幹部として避けては通ることの出来ない身近に迫った問題にヒントを与えてくれた内容となり、ビジネス経営委員会が前回9月に担当した例会に続いて素晴らしい例会となった。

(記事:石原)

2月例会を終えて

中村友紀 (株)サンイントウエイ 代表取締役社長



2月例会へ多数のご参加ありがとうございました。例会内容は勿論ですが、臨時総会が開かれ山口次年度会長が承認される大切な例会になるので委員会全員が緊張感を持って例会に挑みました。きっと会員の皆様には満足してもらえる例会になったのではないかと自負しております。

2月例会では、人口減少などの「環境変化」による影響を踏まえてビジネス・経営を伸ばし生き残ることを考えることをテーマにしましたが、とても範囲も広く難しい内容でしたので、例会をどのように進めていくのか、資料や原稿はわかりやすいのかといった検討を繰り返し、委員会メンバーが一切妥協することなく追求しました。委員会メンバーが能動的に活発な意見交換を行うことで素晴らしい例会が行えることを私自身も学ぶが例会になったと感じました。改めて委員会メンバーに感謝申し上げます。ありがとうございました。

会を学び、会を知る。新入会員オリエンテーション！

平成31年2月21日(木)米子市公会堂にて新入会員オリエンテーション(担当:広報委員会)が開催された。冒頭に秋里会長の挨拶があり「新入会員は真っ白で良いと思う。真っ白な一枚の布の様であれば何色にも染まる。そしてそれぞれ染まった色が卒会をする時に社会に写る」と話された。その後、高塚専務理事からスローガン「使命感」テーマ「貪欲に学ぶ」について、また年間活動指針について説明を頂いた。

続いて広報委員会メンバーを中心に、当会の組織、関連団体選挙活動に対する方針、OB会との関係、皆生トライアスロンとの関わり、ハンサムとホームページ、周年事業、継続事業について詳しく順次、説明が行われた。また、今後の中央会活動がより有意義なものになるようにグループワークを行って、新入会員それぞれの目標を共有し合った。そして最後に権田副会長から総評を頂き閉会した。

オリエンテーション後の懇親会では先輩会員が見守る中、それぞれの想いをこめた新入会員の自己紹介が行われた。また、各副会長からは「私と中央会」というテーマで、自身と会との向き合い方や姿勢について語って頂き、新入会員はそれを胸に刻む様真剣に聞いていた。

新入会員の皆様、ようこそ中央会へ。

(記事:青戸)



中央会スペシャル



File.05

トライアスロン特集 (未来編)

～中央会トライアスロン、続く未来～

企画構成 岡田(リーダー)、福山、石田、赤井

西部青年中央会の事業の中でも、継続事業として行われている「全日本トライアスロン皆生大会」のボランティア支援。時には多くの会員の力を借り、また会員の気持ちを形にしながら運営されてきたこの事業を今後も継続していくためには何が大切なのか。2年連続での実行委員長を務める高塚専務理事に、今この瞬間、継続に向かって何を思い、現役会員に対して何を伝えたいのか伺いました。また、長きにわたって大会運営に携わっている【野嶋功OB】と、中央会の事業としてスタートした頃、会長として強い思いで会員を団結させた【岩田慎介OB】に、継続していくためには何が必要なのか、未来に向けてのお話しを伺いました。

トライアスロン実行委員長 高塚康治 (富士オートメーション取締役副社長)

まだ参加したことのない人には「出たら楽しいぞ」という事を伝えたい

一トライアスロン活動、昔と変わったと感じることはありますか？

マラソン部での話になってしまいますが、あまり変わったという印象はないです。やることも変わってないし、皆楽しんでやっている。ただお行儀は良くなったと思う。(笑)

一部長職はどうでしたか？マラソン部長大変ですよ？

大変ですね。挨拶回りなど分担できればもっと楽だけど、どうしても仕事が部長に集中する。始まってしまえばポスター貼りや看板立てなど皆にやってもらえますが、部長は活動が始まるまでが忙しい。特に大変なのは書類整理と全ASへの挨拶回りですね。でも大変だったけど楽しかったですよ。

一若い会員はトライアスロンの活動についてどう思っているのでしょうか？

初めは訳が分からないでしょう。面倒くさいと感じるんでしょうかね。継続事業という面では今はお地蔵さまに目が向いているので、継続を意識しなくてもトライアスロンは着々と進んでいるというか。会全体でやっていく仕組みも出来上がっています。逆に出来上がり過ぎていて・・・効率を求めると経験者がやる方がいいからメンバーの異動もほぼ無く、他の部を知らないという状況が続いていると思う。実行委員長の仕事も、本音はすることない位に各部が仕上がっている。部長と配属さえ決めれば自然と流れていく。そこまで完成している。去年一番感じたのは、やっている時は「自分がやらんと。自分がいないとダメだろう」という気になるけど、実際離れてみると自分がなくてもちゃんと回っている。自分がやらなくても皆できる。これは中央会の力だと思います。

一実行委員長をされて今までと違うものが見えてきましたか？

今後は会員も減っていく事も考えれば今みたいに力業だけでなく頼めるところは頼みながらやっていかないとしんどいかな。効率も必要、中央会だけでやろうとしても無理が出てくる。中央会以外へでも出せるものは出すことも必要では。

一OBのお話の中にも「継続事業として継続していくにはまずは自分たちも楽しむ。そして無理はしない」という言葉がありました。

確かに活動は負担ですがそれを負担と思うかどうか。負担に思わないためにはどうするか？マラソン部はポスター貼りや看板立て・撤収と皆で集まってワッとやってワッと解散。汗かくから話は見やすい。でもボランティア部はなかなかそういう雰囲気になりにくいかも。頭に汗をかく。マラソン部は頭使わないですから

ね(笑)。AS部も含め今は3つの部ですが、このままの体制で継続できるか？ボランティア部がやろうとしたみたいに大々的にOBの力を借りるのも1つのやり方だと思います。

一会員にトライアスロン活動に参加してもらうためには？

中央会活動もそうだけど、こればかりは出てみないとわからない。参加したことが無い人に分かってと言っても無理な話。きっかけはやらされ感でもいいじゃないですか。まずは出て、やって、感じてみて。来た時に先輩たちがどう立ち振る舞うか。我々は出たら楽しいよと伝えるしかない。歴代その流れで今の形ができていくんだし。出て楽しくなかったら仕方がない。でも出るからには楽しまなきゃという気持ちで来ないと。何のために会に入ったんだという話になる。出たら楽しいぞという事を伝えたいですね。

一継続事業としてやっていくべきか？

重い質問ですね。そこはしっかり慎重に検討しないと。自分が実行委員長を2年続けて辞めたのはトライアスロンと中央会の未来を考え、関係の在り方を考えるという意味もあると思っています。そういう事をみんな巻き込んで考えることが自分の役割だと思っています。トライアスロン＝中央会というブランドもあるし、大変だからできないと言ってしまったら何のために今までやってきたの？という話になるし。できないなら、できる形でやるしかない。人が減ってもやっていけるやり方を各部で考えてほしい。いろんなことを想定しながら知恵を出してほしい。その中でお金がかかることがあるなら、中央会がお金まで出すのは難しいですが、そこはしっかり協会に話をしていく必要もあると思います。協会の組織図を見ても中央会出身の方が多数いらっしゃる。それだけ結びつきが強いことは間違いないです。

一今後の自分自身と会員に言っておきたいことを一言

自分には・・・難しいな・・・「大丈夫。大丈夫だ。大丈夫なはずだ。何とかなる・・・何とかしよう！」

会員には・・・負担じゃないと頭を切り替えて。もし負担に感じているなら、それを自分達を取り除くことはできないけれど、来てくれたら、もしかしたら楽しいに変わるかもしれません。達成感が得られるかも。この土地にいるからこそできる事でもあります。汗かきましょよ。失敗してもいいじゃないけど失敗してもたいがい取り返せる。やってみればまた今までと違った景色が見えると思います。まずは一緒にやってみましょよ。

(インタビュー記事:福山)



29期副会長 野嶋 功OB (北条レンタカー米子営業所 所長)

汗をかいて終わる関わり方だけでなく、側面から大会の支援をするのが本来の中央会らしい活動。

「今のトライアスロン支援は『継続事業だからやっている』という感もある

新入会員は何故トライアスロンなのか、なんて訳がわからないのだから、まずは『出てきてやらないといけない』でいいと思う。体験もしていないのに中央会とトライアスロンについて説明した所で理解できないと思う。

最初はとにかく出て来る。やってみなければわからない。そして先輩会員の役目は、新入会員に対して活動の趣旨や過去の中央会の取り組みをしっかりと伝えていくことだ。以前はよく会に呼ばれてトライアスロンの活動を話しに行ったが、ここ近年はなくなった。今の中央会にはそういう機会(新入会員に対する説明の場)がなくなっているのではないかな。

「今後は現3部(ボラ・マラ・AS)を中央会だけで維持していくのは難しくなると思われるが

無理してできないものをやる必要はない。中央会じゃなくてもできる部分は他に宛てていけばよい。無責任に投げる訳にはいかないので、橋渡しの役などは必要だと思うが。

汗をかいて終わる関わり方だけでなく、側面から大会の支援をするのが本来の中央会らしい活動。過去には政治や経済への根回しを中央会が担っていた(No.355掲載・過去編参照)

皆生大会の運営役員の半分は中央会出身者だし、今後も運営委員会の人材は中央会から獲得していきたいと思っている。それだけの能力と思い入れを持った人達がいる訳で、皆生大会から中央会に離れてもらう訳にはいかない。もし中央会が離れたら、皆生大会は簡単に瓦解してしまう(笑)

あと、中央会OBも未だにトライアスロンに関わっていきたいと言う人が多い。トライアスロンをOB交流会のひとつにしてしまってもいいのでは。喜ぶOBも多いと思う。

中央会には、皆生大会が地域にとってどういう存在なのか考察して、経済団体としての関わり方を模索して欲しい。地域や行政に対して、(経済的な方面で)こういうやり方をしていったらどうなのか、という提案をして欲しい。色々な知恵や方法を知っている、考え出せるのが中央会だと思う。そういう関わり方をしてもらった方が、皆生大会や地域の将来に対して良いと思う。

畑中OBの 新作小説刊行!

当会第24期卒会の畑中経之OBが、自身2冊目となる新作小説『追鬼 探偵山神笑吉郎』を発売されるということで、取材にお伺いしました。

畑中OBは元々小説など読んだ事もなかったそうですが、当時所属していた会社の同僚に勧められ、SEとして企画書や説明書を作成していた経験から筆を取ったのが執筆の始まりだったそうです。仕事上で付き合いのあった出版社社長の協力もあり、とんとん拍子で気付いたら第1作目『時線の手紙』が発刊されていたとのこと。

今回発刊された第2作『追鬼 探偵山神笑吉郎』は、我々に馴染みのある大山の裾野の村を舞台の中心とした恋愛・サスペンス小説です。元SEらしい理路整然とした伏線の配置や物語の進行がなされ、従来の小説と異なる新感覚が味わえる1作。時系列の管理がやや難解だった前作に比べ、今作は毎ページ面白く読めるような作りにしたとは畑中OBの談。

『追鬼 探偵山神笑吉郎』は、ブックヤード各店及び宮脇書店ホープタウン店にて発売中です。



(記事:石田)

27期会長 岩田慎介OB (株福栄 代表取締役)

トライアスロンは、中央会の運営のミニチュア版だ。

「一歴の浅い会員の、トライアスロン行事への参加率が下がってきている

今、トライアスロンは中央会なしではできないだろう。ただ、時間が経つにつれマンネリ化して、新しい人にとってはよくわからない物になっているんじゃないだろうか。新入会員オリエンテーションの数分に説明される内容でわかる訳もない。

そういう人達には、先輩の思いを伝えて、理解を求めて欲しい。昔は先輩が言ったら黙ってやれ、なんてこともあっただろうが、今は時代じゃない。若い世代に動いてもらうためには、納得してもらわないといけない。

トライアスロンは、中央会の運営のミニチュア版だ。人をまとめて、全体を進める。これも本会や仕事にフィードバックできるはず。団結力を強めるためのボランティアだ。

「今期のトライアスロン実行委員長は、前期に続き2期連続となる

自分達の頃は『貴方しかいない』という指名方式だった。思いや熱がないと難しい。会長や副会長とはちょっと違う。何年か同じ人がやった方が上手く行くと思う。

「今後は現3部(ボラ・マラ・AS)を中央会だけで維持していくのは難しくなると思われるが

今後は人が減っていく。これは避けられない。トライアスロンボランティアの継続を議論する委員会を今再び設ける必要があるかもしれない。

中央会は学ぶ場。なんとなく事業に関わるだけではなく、会の中で採りて議論していく。答えが出なくてもいい。会社の運営でも答えが出ない事なんてよくあること。それが中央会の良い所だ。

トライアスロンを接点に、現役とOBと一緒に活動できるかもしれない。トライアスロンの熱が忘れられないOBも多いはずだ。解決のヒントはそういう所にあるかもしれない。

(インタビュー記事:石田)

前回の歴史編に続き、今回は未来編としてお話をまとめさせていただきます。

第39回皆生トライアスロンの成功に向けて、実行委員長としての熱い想いを語られた高塚専務理事。長きにわたり運営に携わっている野嶋OBにはトライアスロンにおける中央会の重要性を、岩田OBには、いかに会員を巻き込み大きな力を発揮させるかが成功のカギと学びました。

今回でトライアスロン特集は幕を閉じますが、今後も継続して取り組むための希望や課題についての貴重なお話を聞くことができました。今後もよりよい活動をしていく為には我々、現役会員がもう一度、皆で考え知恵を出し合う必要があるのかもしれない。

3月役員会報告

平成31年3月1日(金) 米子市公会堂 集会室5にて3月役員会が開催されました。主な議題は以下の通りです。

- ・2月例会開催の件 ・3月例会開催の件
- ・4月例会開催の件
- ・45周年記念事業の件

※なお、詳細については各委員長までご確認ください。

編集後記

過去に類を見ない2期連続での皆生トライアスロン実行委員長を務められる高塚専務理事にインタビューさせていただきましたが、会員や会への心配りや会歴の浅い私では想像もつかなかったリアルトークなどを聞かせていただき、非常に気付きの多いひとときでした。

(広報委員会 岡田英憲)